《中学校・社会》

Ⅰ　学力診断テストの概要

１　「群馬県教育課程実施状況調査」等に見られる本県生徒の課題

(1) 統計資料を読み取ったり、資料を関連付けて考えたりする力が不足している。
(2) 我が国の歴史の大きな流れを理解する力が不足している。
(3) 近現代の学習内容の定着が不十分である。

２　出題単元と各設問の設定意図

単元	各設問の設定意図	
自然環境から見た日本の地域的特色	1 課題解決的な学習過程で、多様な資料を読み取ったり資料相互の関連を考えたりして我が国の国土の地理的な特色を考察する力を把握する。	(1) 一つの主題図から読み取れることと、二つの主題図を組み合わせて読み取れることを識別させることで、複数の資料から読み取る力を問う。
		(2) 雨温図を読み取る力と日本の気候区分の各気候の特色を考察する力を見る。
		(3) 気候の特色をとらえる上で、気温、降水量だけでなく、海流、風といった要素についても視野に入れ多面的・多角的にとらえる力を問う。
		(4) 自然災害が発生しやすいという日本の特色を、主題図を基に考察する力を見る。
		(5) 自然災害の発生しやすい日本において、どんな防災対策を取ればよいかを考えさせ、自然災害と日常生活との関連づけて考察する力を問う。
資源や産業から見た日本の地域的特色	2 課題解決的な学習の追究過程で、地理情報活用に関する技能を把握する。	(1) 単純な資料を読み取る技能を問う。
		(2) 根拠となる資料を示し、多面的・多角的に資料を読み取る力を問う。
		(3) 複数の資料を重ね合わせて比較し表現する力を問う。
		(4) 根拠を明確にするために、主体的に資料を活用する力を問う。
		(5) 問題を解く中で身に付く新たな思考の深まりを問う。
中世の日本	3 課題解決的な学習の追究過程で、我が国の歴史の大きな流れと各時代の特色を広い視野から考察する技能を把握する。	(1) 複数の資料に記された各時代の特色ある歴史的事象を比較・関連させ、我が国の歴史の大きな流れを歴史的な見方でとらえる力を問う。
		(2) 複数の資料に記された歴史的事象から必要な情報を収集・選択して、共通する歴史的意味を見いだす力を問う。
		(3) 時代の特色を示す歴史的事象について、資料や時代背景から発生した理由を見いだすことができるかを問う。
		(4) 歴史的事象の意味について文書史料を基に考察し、その結果を設問の意図に即して適切に記述することができるかを問う。
		(5) 時代の特色を示した歴史的事象を描いている絵画史料から、設問の意図に即した情報を的確に見いだすことができるか問う。
		(6) 複数の資料に記された歴史的事象に共通する成立要因や時代的背景を、時代のまとまりや特色、流れとかかわらせて適用・判断し、その結果を設問の意図に即して適切に記述することができるかを問う。
近現代の日本と世界	4 課題解決的な学習の追究過程で、資料活用技能と確かな歴史認識に基づき判断する技能を把握する。	(1) 複数のグラフを比較し、それぞれに示されている情報の内容を判断して、設問の意図に即して取捨選択できるかを問う。
		(2) 我が国の近現代史を「近代化への変容」といった視点から時代的特色をとらえられるか問うとともに、社会的事象の移り変わりを数値化したデータから読み取れるかといった資料活用の能力を問う。
		(3) 複数の資料から読み取る資料分析力を探る。
		(4) 視点を変えて複数の資料から読み取る資料分析力を探る。
		(5) 複数の資料から多面的・多角的に考察し、歴史的事象の全体像をつかむ力を探る。

Ⅱ　各設問における分析結果と授業改善のポイント

課題１　複数の資料を関連させて読み取り、社会的事象の理由を考える力を身に付ける。

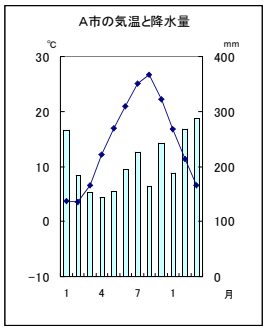
１　具体的な問題と反応率

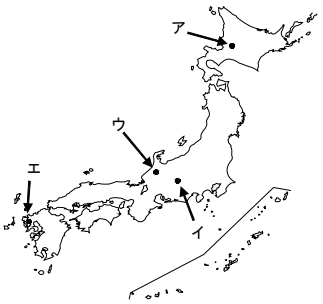
地図帳の103ページから106ページを見ながら答えなさい。

1　日本の自然環境について地図帳の資料を使いながら学習しています。後の(1)から(5)の各問いに答えなさい。

(2) 日本の気候について調べたグループでは、日本の６つの気候区分の１つを、Ａ市の統計資料を例にして説明することにしました。

次のグラフを見て、Ａ市は、日本地図に示された、ア、イ、ウ、エのどこでしょう。１つ選び書きなさい。また、**月別平均気温**と**月別平均降水量**ということばを使って、**選んだ理由**を書きなさい。





※折れ線グラフは気温を表し、棒グラフは降水量を表している。

◇**1**(2) 反応率

1	アを選択して述べているもの	… 3.3%
2	イを選択して述べているもの	… 9.0%
3	ウを選択して述べているもの（正答）	…43.0%
4	エを選択して述べているもの	…10.7%
9	その他	…28.6%
0	無解答	… 5.4%

(3) 地図帳の103ページの「**2**日本の地形 **1**日本の地形」と次の４つの資料の中から１つを用いて、Ａ市の気候になぜこのような特徴がみられるのか、その理由を説明しました。

説明するために必要な資料を次の１～４の中から１つ選び書きなさい。

1	106ページ	「**1**降水　**1**１年間の降水量」
2	106ページ	「**1**降水　**2**積雪量」
3	106ページ	「**1**降水　**4**冬（１月）の降水量」
4	106ページ	「**2**気温　**1**冬（１月）の気温と風」

◇**1**(3) 反応率

1		…22.9%
2	（準正答）	…21.9%
3	（準正答）	…28.5%
4	（正答）	…20.1%
9	その他	… 0.0%
0	無解答	… 6.6%

2　課題分析結果

(1) 学力診断テストの分析

①　設問1(2)では、月別平均気温と月別降水量の二つの観点から場所を絞り込んでいく思考が必要となる。生徒が記述した理由から、次のような思考の傾向が見られた。

○　気温と降水量のグラフを見るときに、始めに気温から見る傾向がある。気温のグラフを見て「年間の気温が高い」ととらえた生徒はウまたはエを選択する傾向がある。これは、冬の気温が０度以上であることや、夏の気温が25度以上になっていることに着目し、高緯度･高標高でないところという理由から選択している。「年間の気温が低い」ととらえた生徒は、アまたはイを選択する傾向がある。これは、夏の平均気温が30度をこえていないことを理由に、アは緯度が高いこと、イは標高が高いことから気温が低いと考え、選択したと考えられる。ここで、どの月の平均気温も０度以下にならないことを見落とし、低いととらえたことがつまずきとなっている。

設問１(2)の理由の記述から見た生徒の思考の傾向

着眼点		降水量 冬 ○	降水量 年間 ×
気温	高い ○	ウ	エ
	低い ×	ア	イ

○　次に降水量のグラフを見て､「冬の降水量が多い」ととらえた生徒はウまたはアを選択する傾向がある。これは、日本海側の気候や北海道の気候は冬に降雪が多いという既習知識が生かされていると考えられる。「年間を通して降水量が多い」ととらえた生徒はエまたはイを選択する傾向がある。特にエを選択した多くの生徒が台風の影響を理由に挙げている。ここで、冬の降水量が夏よりも多いことを見落としたことがつまずきとなっている。

②　その他の解答の生徒は28.6％であった。月別平均気温と月別平均降水量の言葉を使って理由を適切に記述できていなかったが、そのうちの多くの生徒がウを選択していた。

③　この設問1では、地図帳を見て解答することになっている。地図帳の105ページの「**日本の気候 3気候区分**」「**日本の気候 5気温と降水量**（六つの気候区分の代表的な六都市)」、106ページの「**1降水 3冬の降水量**」「**1降水 4夏の降水量**」「**2気温 1冬の気温**」「**2気温 2夏の気温**」の六つの資料が参照できる条件であった。これらの資料とＡ市の気温と降水量のグラフ及び地図上の位置を比較・関連させることで一層確かな思考ができる。正答した理由の中にもそのような記述をしている生徒が見られた。

④　設問1(3)では、２、３、４の資料を選択した生徒は、Ａ市の「冬に降雪量（降水量）が多い」という特徴をとらえているが、１の資料を選択した生徒は年間の降水量に目が向いており、特徴をとらえていないと言える。２、３の資料は特徴としての降水量や降雪量が多いという事実（結果）を直接示している資料であり、これらを選択した生徒は、気候の要因（理由）となる地形や季節風、気温などに目が向いていないと言える。設問1(2)で正答した生徒でも1(3)で４の資料を選択した生徒は、19.2％であり、生徒全体の中で見ると8.3％であった。日常の学習指導の中で、なぜそのような地理的事象が生じるのか、その理由について考える指導を繰り返し行うことが望まれる。

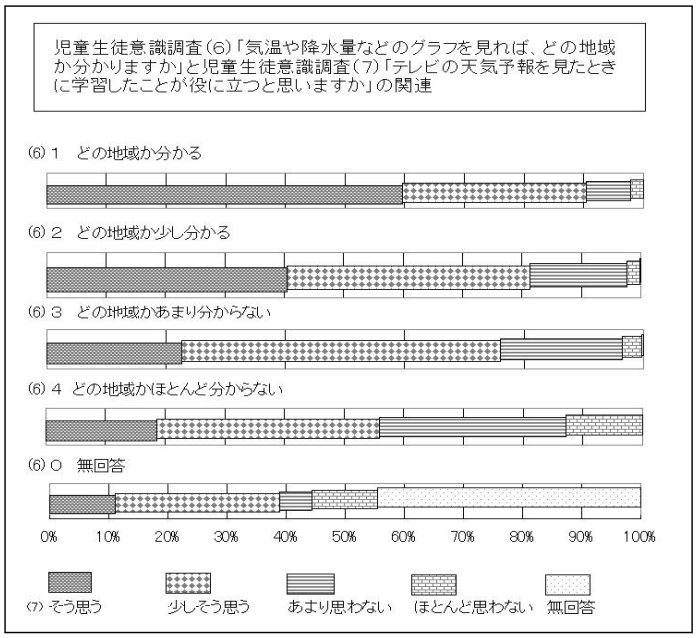
◇設問１(2)で正答した生徒の設問１(3)での反応率

1		…	16.6％
2	（準正答）	…	26.6％
3	（準正答）	…	34.3％
4	（正答）	…	19.2％
9	その他	…	0.0％
0	無解答	…	3.3％

(2) 学力診断テストと児童生徒質問紙調査のクロス集計の分析

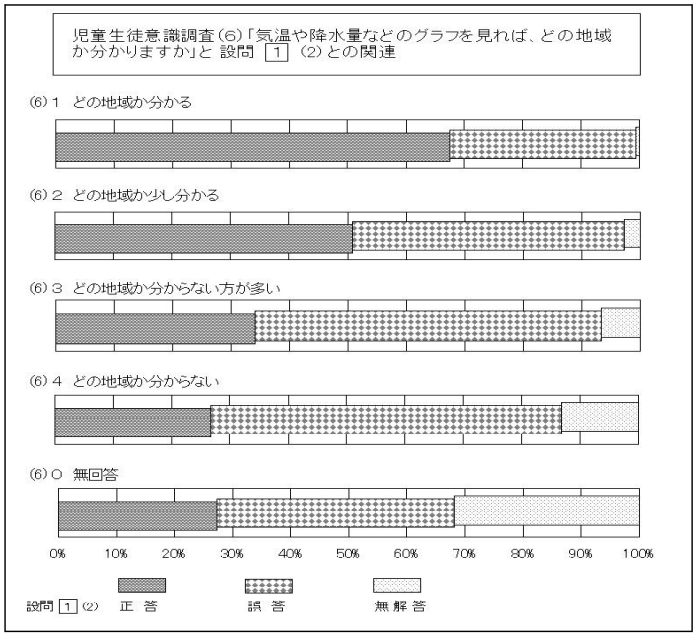
○　質問紙調査(6)「気温や降水量などのグラフを見ればどの地域か分かりますか」と(7)「テレビの天気予報を見たときに学習したことが役に立つと思いますか」をクロス集計した結果は右のようである。

○　質問紙調査(6)で「４　分からない」から「１　分かる」へと意識が高くなるにつれて質問紙調査(7)で「役に立つ」ととらえている生徒の割合が増加する傾向が見られる。学習して「分かる」自信をもてると「役にたつ」という有用感につながり、日常の地理的事象にも関心をもって見るようになると考えられる。



○　児童生徒質問紙調査(6)「気温や降水量などのグラフを見ればどの地域か分かりますか」と設問[1](2)をクロス集計した結果は右のようである。

○　質問紙調査で「４　分からない」から「１　分かる」へと意識が高くなるにつれて正答した生徒の割合が増加する傾向と、無解答の生徒の割合が減少する傾向がある。学習したことが身に付き、分かるという自信につながっていると考えられる。「分かる」「役に立つ」という自信や有用感が、日常の地理的事象にも当てはめて考え、相乗的な学習効果をもたらしていると考えられる。



3　授業改善のポイント

○　気候等の自然環境に関する地理的事象の特色について考察する際には、比較する地域を取り上げて雨温図等から違いを見付けるようにする。その際に具体的な事例として天気予報等の情報を取り上げて、関心をもちながら違いを確かめられるよう工夫する。

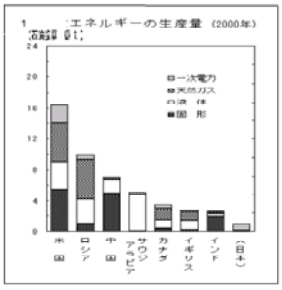
○　地理的事象の特色を考察した後には、「なぜ、そのような地理的事象が生じるのか」その理由を考察するようにする。その際、その要因となる自然条件等の資料を基に考えられるよう工夫する。

課題２　統計資料を読み取ったり、資料を関連付けて考えたりする力を育成する。

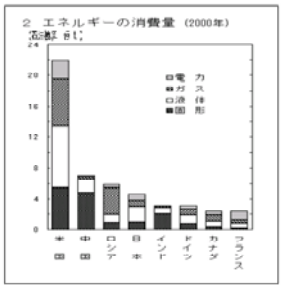
１　具体的な問題と反応率

2　あなたはエネルギー研究所の研究員です。他の研究員たちと「世界と比べた日本」の資源・エネルギーについて「中学生向け研究会」を開くことになりました。関連する資料（下図）を集め、調べました。後の(1)～(4)の各問いに答えなさい。

▼図１

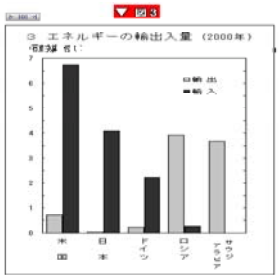


▼図２

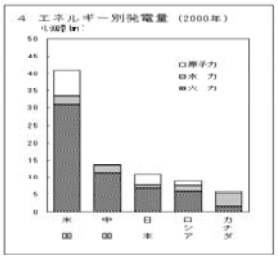


※上の図１で（日本）とあるのは、順位はこの通りではなく、これらの国々と比較するために入れてある。
※一次電力とは、水力・風力・潮力波力、太陽光や一部の原子力発電等によるもので、火力発電は含まない。
※図１及び図２にある「液体」は石油、「固体」は石炭と、ほぼ読み替えてよい。

▼図３



▼図４



（出典：図１～図４のいずれも総務省統計局外国統計より）

→標語
（答えはすべて解答用紙の解答らんに書くこと）

「エネルギー研究所」発行

→ 呼びかけることば

図１ ～ 図３
［説明］

図４
［説明］

かつては「理想の電化に電源群馬」と呼ばれましたが、電力需要が多くなった今では、・・・・。
（答えはすべて回答らんに書くこと）

(1)　世界と比べた日本のエネルギー事情をみんなに考えてもらうために、ポスターを作成します。まず、集めた資料に説明をつけます。資料 図２～ 図４からそれぞれ言えることを、 図１の例にならって書きなさい。

◇2(1)反応率
図２〈資料から課題を見出す問題①〉
・正答（完答）の割合･･･36.8%　・準正答の割合･･･29.8%
・評価基準枠外の解答･･･26.7%　・無解答･････････ 6.7%
図３〈資料から課題を見出す問題②〉
・正答（完答）の割合･･･30.0%　・準正答の割合･･･56.8%
・評価基準枠外の解答･･･ 8.7%　・無解答･････････ 4.5%
図４〈資料から課題を見出す問題③〉
・正答（完答）の割合･･･23.9%　・準正答の割合･･･23.0%
・評価基準枠外の解答･･･45.1%　・無解答･････････ 8.0%

(2)　資料　図１と 図２を重ね合わせて考えます。両方の図にある米国（アメリカ）・ロシア・中国・カナダ・インド・日本を、「消費量に対する生産量」という見方からグループ分けをします。日本と同じグループに入る国を１つ以上、書きなさい。また、その国を選んだ理由も書きなさい。

◇2(2)反応率〈諸外国を日本との類似性から分類する問題〉
・正答（完答）の割合･････････････61.3%
・評価基準枠外の解答･･･23.2%　・無解答･････15.5%

◇2(2)反応率〈分類した類似性について説明する問題〉
・正答（完答）の割合･････････75.4%
・評価基準枠外の解答･････････20.0%
・無解答･････････････････････ 4.6%

(3)　資料 図１～ 図３の３つの資料を総合して考えます。「日本のエネルギー事情が、世界と比べて違っていること」をみんなに説明するポスターの標語を書きなさい。

◇2(3)反応率〈複数の資料の共通点から特色を見出す問題〉
・正答（完答）の割合･･･26.5%　・準正答の割合･････10.7%
・評価基準枠外の解答･･･30.8%　・無解答･････････････32.0%

(4)　「世界と比べた日本のエネルギー事情」が私たちの生活と密接に関わっていることを説明するために、 図４を掲載（けいさい）します。吹き出しを参考に、(1)～(3)で考えたことを踏まえて、「みんなに呼びかけることば」を書きなさい。

◇2(4)反応率〈複数の資料を基に国民生活の関連を考察する問題〉
・正答（完答）の割合･････････33.4%
・評価基準枠外の解答･･･27.4%　・無解答･････39.2%

(5) 「中学生向け研究会」が始まり、「世界と比べた日本のエネルギー事情」について、質問が出されました。「図１～ 図４の資料を踏まえて、わたしたちに何ができるか」という質問に対するあなたの考えを書きなさい。

◇2(5)反応率〈特色を踏まえ、国民としてあるべき態度を考える問題〉
・正答（完答）の割合･･･28.3%　・準正答の割合･･･28.5%
・評価基準枠外の解答･･･10.5%　・無解答･････････32.7%

２　課題分析結果

課題２について、統計資料を読み取ったり資料を関連付けて考えたりする力を育成するため、次の五つの段階を踏まえて分析する。

(1) 学力診断テストにおける単純集計の分析

段階	課題１を解決するための手順	2	設問2の無解答率
1	資料から課題を見出す。	(1)	6.7%, 4.5%, 8.0%（選択）
2	類似性から分類し、類似性について説明する。	(2)	15.5%, 4.6%（選択・記述）
3	複数の資料の共通点から特色を見出す。	(3)	32.0%（文章記述）
4	複数の資料を基に考察する。	(4)	39.2%（文章記述）
5	特色を踏まえて自分なりの考えを表現する。	(5)	32.7%（文章記述）

○　段階１について、資料から課題を見いだす設問2(1)では、誤答が45.1%あり、「順位と割合の両者を併せて読み取る力」が不足している。「複合的グラフで一見特色の見られないケースでの読み取り」が弱い。「無解答率が低く、正答率が低い」のは「グラフの読み取りのスキル」に起因すると考えられる。

○　段階２について、類似性から分類する設問2(2)では、正答の割合が61.3%あり、二つの資料中の国々を比較して容易に正答が得られたと考えられる。分類した類似性について説明する設問においても、正答の割合が75.4%あり、よく読み取れている。

○　段階３について、複数の資料の共通点から特色を見いだす設問2(3)では、全体の1/4が正答しているが、「誤答及び無解答の合計」は62.8%を占める。三つの資料を読み取って意味を総括しテーマを設定することは、「カテゴライズする力」「自分の言葉で表現する力」が求められ、日頃から学習していないと身に付かない。

○　段階４について、複数の資料を基に考察する設問2(4)では、誤答27.4%・無解答39.2%あり、複数の資料から自分なりに考察する経験が少ないことが分かる。

○　段階５について、特色を踏まえて自分なりの考えを表現する設問2(5)では、誤答は10.5%と少ないが、無解答は32.6%と多い。学習事項を生活レベルで考え直すことを社会科の学習において大切である。授業ではあまり扱われていないのか、或いは自分なりの考えを記述することに抵抗があると思われる。

(2) 児童生徒質問紙調査における単純集計の分析

○　(1)「グラフを見たときに、グラフが何をあらわしているかわかりますか」に対し、生徒の回答は全体的に高い傾向にある。単純なグラフの読み取りは容易であるが、複数のグラフや数値グラフから読み取って、自分の考えを表現することはあまり得意ではない。

○児童生徒質問紙調査(1)結果
・よく分かる･････････････10.2%
・だいたい分かる･････････69.7%
・分からないことが多い･･･16.9%
・ほとんど分からない･････ 2.9%
・無回答･･････････････････ 0.3%

○　(10)「あなたは複数の資料を使って必要なデータを読み取ることができますか」に対して、生徒の回答は「できる」「できない」ほぼ同じ割合にある。複数の資料を読み取るには、背景となる知識や資料の読み方の技能などが求められる。資料に関する社会的事象に興味がないと、資料の読み取りは浅くなってしまう。

○児童生徒質問紙調査(10)結果
・できる……6.5%
・少しできる……45.4%
・あまりできない……41.3%
・まったくできない……3.9%
・無回答…… 2.9%

(3) 学校調査における単純集計の分析

○　Ⅲ(1)「グラフを読み取る際に、グラフの特徴や読み方を指導していますか」に対して、学校の回答は全体的に高い傾向にある。グラフの読み方は約７割の教師がしっかり指導している。生徒とのクロスはかけられないので、指導の在り方を再検討する必要がある。

○学校調査Ⅲ(1)結果
・している……71.1%
・少ししている……26.3%
・あまりしてない……2.6%

○　Ⅲ(9)「複数の資料を組み合わせてデータを読み取る指導をしていますか」に対して、学校の回答は全体的に高い傾向にある。約９割の教師が複数資料を組み合わせて扱うようにしている。

○学校調査Ⅲ(9)結果
・している……44.7%
・少ししている……44.7%
・あまりしてない……10.6%

(4) クロス集計の分析

○　設問2(2)と質問紙(10)によると、「両方できて、複数資料の読み取り（だいたいも含む）ができるとした生徒」は28%程度である。「読み取れる、だいたいできるとした生徒」は合計50%を超えているので、複数資料の読み取りは自己評価が甘く、実際に日頃から経験が少ないことが予想される。

○　設問2(3)と質問紙(10)によると、誤答率41.5%の中にも、「複数の資料を使ってデータを読み取れる生徒」が16.3%いる。このことから「複数資料を正しく読み取ることの難しさ」が認識できていない可能性があることが分かる。

(5) 各調査分析結果のまとめ

○　「資料（特にグラフ資料）をしっかり読み取り、社会的事象の意味を考える」という基礎・基本的な部分ができていない。特に複数資料からの判断は不十分である。

○　「自己の考えをまとめて記述させると、無解答が多くなることが顕著」であることから、「思考・判断することが苦手」であることが分かる。

○　正答・準正答を合わせて6割弱という複数資料を使って考えをまとめる設問2(5)において、「必要なデータが読み取れる(できる・少しできる)と回答している生徒」は17.6%である。同じ設問2(5)で、「地理に興味関心の高い(思う・少し思う)生徒」は20%である。自信をもって社会科の学習に取組むことができない原因が他にあると考えられる。

3　授業改善のポイント

○　地図や統計資料の見方や読み取り方を、生徒の実態や発達段階に応じて、ていねいに繰り返し指導を行うようにする。

○　一つの資料を視点を変えて多角的に読み取ったり、複数の資料について比較・関連させて考える機会を意図的に設けたりするなど、資料を活用する能力を高めるための指導方法を工夫する。

課題３　我が国の歴史の大きな流れを理解する力を育成する。

１　具体的な問題と反応率

3　よしおさんは、日本の歴史について、ある学習課題にしたがって、時代のまとまりから、カードＡ、カードＢ、カードＣの３枚に「主なできごと」をまとめてみました。これらのカードを見て、後の(1)から(6)までの各問いに答えなさい。

カードＡ

主なできごと
応仁の乱が始まる 日本に鉄砲が伝来する 南蛮貿易がさかんになる 織田信長が足利義昭を京都から追放する

カードＢ

主なできごと
ペリーが浦賀に来航する 日米修好通商条約が結ばれる 薩長同盟が成立する 徳川慶喜が大政奉還を宣言する

カードＣ

主なできごと
文永の役がおこる 弘安の役がおこる 永仁の徳政令がだされる 鎌倉幕府が滅びる

(1)　カードＡ～Ｃを古い順に並べると次の１～６のうち、どのような順になりますか。正しいものを１～４の中から一つ選び、数字で書きなさい。

１　Ａ→Ｂ→Ｃ	２　Ａ→ｃ→Ｂ	３　Ｂ→Ａ→Ｃ
４　Ｂ→Ｃ→Ａ	５　Ｃ→Ａ→Ｂ	６　Ｃ→Ｂ→Ａ

◇3(1)反応率〈複数の資料に示された各時代の特色ある歴史的事象を比較・関連させ、歴史の大きな流れをとらえる問題〉
・正答（完答）の割合･･･64.7%　・評価基準枠外の解答･･･34.3%　・無解答･･ 1.0%

(2)　３枚のカードに書かれている「主なできごと」のうち、Ａ～Ｃのいずれのカードにも書かれている内容として、正しいものを次の１～４の中から一つ選び、数字で書きなさい。

１　戦乱の発生	２　宗教の伝来	３　外国との関係	４　法の発布

◇3(2)反応率〈複数の資料に記された歴史的事象から必要な情報を収集・選択して共通する歴史的意味を見出す問題〉
・正答の割合･････59.3%　・評価基準枠外の解答････39.6%　・無解答･････ 1.1%

２　課題分析結果

課題３では、歴史の大きな流れと各時代の特色を理解し、我が国の文化や伝統の特色を広い視野から考察する力を育成することを求めている。そのためには、歴史の大きな流れをとらえたり、複数の資料から共通する歴史的意味を見いだしたりすることが基礎となる。

(1)　学力診断テストにおける単純集計の分析

○　設問3(1)、歴史の大きな流れをとらえる問題では、正答が64.7%あり、鎌倉・室町・江戸の各時代のおおまかな特色をとらえているといえる。記号選択での解答方法に生徒は慣れており、比較的容易であったと推察できる。

○　設問3(2)について、共通する歴史的意味を複数の資料から見いだす問題では、設問3

(1)と同様に記号選択方式のため、正答は59.3%あった。設問3(1)(2)とも無解答が１％程度であり、生徒にとって取り組みやすい設問であったといえる。

(2) 児童生徒質問紙調査における単純集計の分析

○　児童生徒質問紙調査(11)「社会科で歴史を学ぶときに、その時代の出来事やしくみに興味を感じますか」に対して、生徒の回答は全体的に高い傾向にある。歴史のおもしろさは興味付けに起因するので、普段の授業の中で、生徒の実態とねらいに即し、多面的・多角的に歴史的事象をとらえる授業展開を工夫することが重要となる。

○児童生徒質問紙調査(11)結果
・感じる・・・・・・・・・・・・・・30.7%
・少し感じる・・・・・・・・・・36.1%
・あまり感じない・・・・・・24.4%
・まったく感じない・・・・・6.0%
・無回答・・・・・・・・・・・・・・・2.8%

○　児童生徒質問紙調査(12)「日頃から、世界の様子や人々の生活をもっと知りたいと思いますか」に対して、生徒の回答は全体的に高い傾向にある。歴史的事象に関する生徒の知的好奇心を学習への意欲と結び付ける指導の工夫が必要となる。

○児童生徒質問紙調査(12)結果
・思う・・・・・・・・・・・・・・・・25.1%
・少し感じる・・・・・・・・・・39.6%
・あまり感じない・・・・・・27.7%
・まったく感じない・・・・・4.7%
・無回答・・・・・・・・・・・・・・・2.9%

(3) 学校調査における単純集計の分析

○　学校調査Ⅲ(13)「課題解決的な学習では、予想を基に話合いをさせていますか」に対して、肯定的な回答は47.3%、否定的な回答は52.7%あり、学校の回答は全体的に低い傾向にある。

○学校調査Ⅲ(13)結果
・行っていた方だ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10.5%
・どちらかといえば行っていた方だ・・・・・・・36.8%
・どちらかといえば行っていなかった方だ・50.0%
・行っていなかった方だ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2.7%

○　学校調査Ⅲ(14)「調べたことを発表させ、それを基に話合いをさせていますか」に対して、肯定的な回答は42.1%、否定的な回答は57.9%あり、学校の回答は全体的に低い傾向にある。

○学校調査Ⅲ(14)結果
・行っていた方だ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2.6%
・どちらかといえば行っていた方だ・・・・・・・・・39.5%
・どちらかといえば行っていなかった方だ・・・47.4%
・行っていなかった方だ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10.5%

(4) クロス集計の分析

○　設問3(3)と質問紙(11)によると、この設問の正答率は特に低い。設問3(3)は、資料や時代背景から発生した理由を見いだす問題であるが、「歴史に興味のある生徒」でも誤答・無回答を合わせると20%であった。資料を読む力は、社会的事象を関連付けて正しく理解し判断する力が前提となり、歴史に興味があるだけではすぐに身に付かない。

(5) 各調査分析結果のまとめ

○　児童生徒質問紙調査(11)(12)の結果より、生徒は、社会科で歴史を学ぶときに、その時代の出来事やしくみに興味を感じたり、日頃から世界の様子や人々の生活をもっと知りたいと思ったりしている。

○　学力診断テストの結果より、歴史の大きな流れをとらえる設問3(1)、共通する歴史的意味を複数の資料から見いだす設問3(2)において、正答率が６割前後であった。記号選択式の解答は記述式よりも正答が導きやすいと考える。

○　児童生徒質問紙調査(11)(12)の結果より、生徒は歴史学習に興味をもち、学習への意欲は高いことが分かった。

○　学校調査Ⅲ(13)「課題解決的な学習において、予想を基に話合う授業」、及び学校調査Ⅲ(14)「調べたことを発表させ、それを基に話合う授業」の展開については不十分であり、教師側の授業改善に課題があるといえる。

３　授業改善のポイント

○　歴史の大きな流れを理解するために、課題解決的な学習において、予想を基に調べたり、調べたことを根拠に話し合ったりする活動を重視する授業展開を取り入れる。そのために、以下のような工夫を行う。

・生徒の実態とねらいに即して年間指導計画を見直し、指導内容を精選する。

・多面的・多角的に歴史的事象の特色をとらえる授業を展開し、歴史学習における生徒の学習意欲が高まるようにする。

・生徒の歴史的思考力を育成し定着を図るために、確認テストなどにおいて、資料や時代背景から歴史的事象が発生した理由を見いだしたり、複数の資料から時代の特色を判断したりできるよう、出題の仕方を工夫する。

課題４　近現代の学習内容の定着を図る指導方法を工夫する。

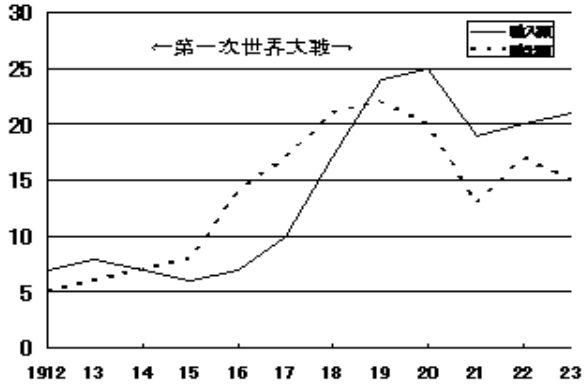
１　具体的な問題と反応率

4　日本の近代化について、様々な角度から調べ、その結果を次の資料Ａ～資料Ｄのようなグラフにしてまとめてみました。これらの資料を見て、後の(1)から(5)までの各問いに答えなさい。

資料Ｅ　＜第一次世界大戦中のある農家の人の発言＞

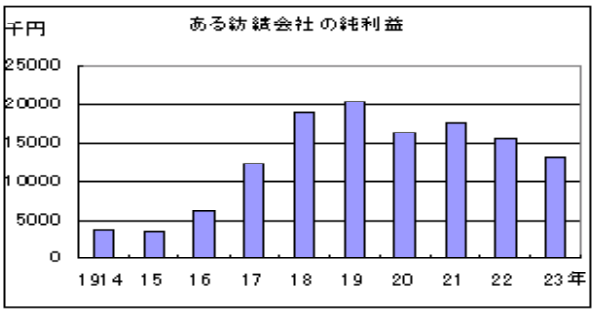
「第一次世界大戦の影響で、『給料が高いから』という理由で、都会に移り住んで工場で働く者が多くなったよ。農業する人手が足らなくなってしまうのではないかな。」

（億円）　資料Ｂ　＜日本の輸出入額の変化＞



（「日本資本主義発達史年表などより」）

資料Ｆ　＜ある紡績会社の純利益の推移＞



（松井幹雄氏のmmrc discussion paper No.31）

(3) 前掲の資料Ｂ、右の資料Ｅと資料Ｆを参考にして、資料Ｆで示した「ある紡績会社」の経営者の1918年時点における感想をあなたなりに想像して、『第一次世界大戦の影響で、……』という書き出しでまとめなさい。

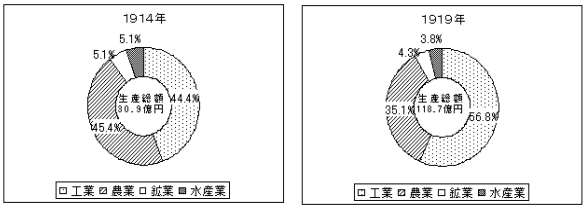
◇4(3)反応率〈第一次世界大戦中の日本の好景気について資本家の立場から考察する問題〉
・正答（完答）の割合・・・・・・・・・・・・ 1.7%　　・準正答の割合・・・・・・・・・・・・36.4%
・評価基準枠外の解答・・・・・・・・・・・・37.1%　　・無解答・・・・・・・・・・・・・・・・・・24.8%

(4) 右の資料Ｆで示した「ある紡績会社」の工場で、第一次世界大戦中に働いていた労働者の生活は、第一次世界大戦後はどのようになったと考えられますか。資料Ｂと資料Ｆを参考にして、あなたの考えを書きなさい。

◇4(4)反応率〈第一次世界大戦後の日本の不景気について労働者の立場から考察する問題〉
・正答（完答）の割合・・・・・・・・・・・・ 3.7%　　・準正答の割合・・・・・・・・・・・・12.2%
・評価基準枠外の解答・・・・・・・・・・・・57.7%　　・無解答・・・・・・・・・・・・・・・・・・26.4%

(5) 資料Ｂ、資料Ｅ、資料Ｆ、次に示す資料Ｇを参考にして、第一次世界大戦が日本の産業に与えた影響について、あなたの考えを書きなさい。

資料Ｇ　＜1914年と1919年における日本の産業別生産割合＞



（日本資本主義発達史年表）

◇4(5)反応率　〈第一次世界大戦が日本の産業に与えた影響について多面的多角的に考察する問題〉
・正答（完答）の割合・・・・・ 1.3%
・準正答の割合・・・・・・60.9%
・評価基準枠外の解答・・・・・15.5%
・無解答・・・・・・・・・・・・22.3%

２　課題分析結果

(1) 学力診断テストにおける単純集計の分析

○　設問4(3)では「誤答37.1%、無解答24.8%」、設問4(4)では「誤答57.7%、無解答26.4%」、設問4(5)では「誤答15.5%、無解答22.3%」と、誤答と無解答との割合が目立つ。「資料を基に考察する設問」では、ほぼ同じ割合の生徒が無解答となっている。「会社の業績と労働者の生活との関係」がとらえきれていない。二つのグラフを比較して読み取ることは容易でないことが分かる。「紡績という語句」や「産業構造の変化」についての理解が不十分である。

(2) 児童生徒質問紙調査における単純集計の分析

○　児童生徒質問紙調査(13)「日本の政治や経済を学習することに興味がありますか」に対して、生徒の回答は全体的に低い傾向にある。

○児童生徒質問紙調査(13)結果
- ある……13.4%
- 少しある……29.0%
- あまりない……42.0%
- まったくない……12.4%
- 無回答…… 3.2%

(3) 学校調査における単純集計の分析

○　学校調査Ⅲ(12)「日本の政治や経済について、生徒に主体的に理解させることができますか」に対して、約７割の教師が肯定的であり、学校の回答は高い傾向にある。

(4) クロス集計の分析

○　設問4(5)と質問紙(11)によると、「誤答・無解答の生徒の中にも、歴史学習に興味があると回答している生徒」が５％いる。「正答の中で、興味関心があると回答している生徒」は0.6%である。多くが一面的な見方の準回答である。生徒にとって難問となってしまったが、多面的・多角的な見方は社会科学習において不可欠であり、資料を読み取って自分の考えをまとめることも、生徒の思考判断力を高める上で重要である。

(5) 各調査分析結果のまとめ

○　近現代の歴史学習では、統計資料や写真などの具体的な資料が豊富であり、復習の資料から読み取って考察することがあまりできていない。

○　近現代の歴史学習に深くかかわる政治経済についての学習は、生徒の興味や関心は低く、指導法の工夫が求められる。

３　授業改善のポイント

○　近現代の歴史学習において、基礎的な語句をていねいに指導し、複数の資料を読み取って歴史的事象の特色を比較したり、関連付けたりして理解する授業展開を取り入れる。

○　思考・判断したことがフィードバックされたり、評価されるプロセスを取り入れたりしながら達成感を味わうことができる授業展開を工夫する。